

当会会員の（株）キメラ（室蘭市）が、  
平成30年4月17日(火)付の、日刊工業新聞に紹介されました。

# マレーシア足場 東南ア・欧開拓

狙いは  
新興国

精密金型部品製作などを手がけるキメラ（北海道室蘭市、藤井徹也社長、0143・55・5293）のマレーシア子会社であるCPTDマレーシアは、ヌグリ・センピラン州に立地する工場の本格稼働から4月で丸6年を迎える。東南アジアや欧州などの営業窓口や、需要に対応する生産拠点として事業展開を進めている。

キメラの海外展開では、創業者の宮崎秀樹前社長時代、欧州からの引き合いなどからシンガポールに販売子会社をおいていた。一方で、近くに工場があってほしいとの要望もあり、シンガポールの拠点を集約し、マレーシアに「シンガポールと欧州で製品を売るための拠点」（藤井社

精密金型部品

キメラ

キメラのマレーシア拠点は工場の本格稼働から4月で丸6年



長）として、CPTDマレーシアを設立した。

マレーシアの拠点は地元の需要とともに、日本で受注した製品をつくらせるなど、技術力の向上も図った。少しずつ技術力がついていき、タイやインドネシア、フィリピンなどへと営業を広げていった。藤井社長は「最初は東南アジアでは精密な

製品の仕事はないだろうと思っていたが、どこにでも難しい仕事があった」と語る。

マレーシア拠点の従業員数はマレーシア人やインド人ら約40人。課題はマレーシア人の仕事に対する姿勢への理解だ。藤井社長は「家族との時間を特に大事にするなど、宗教観をベースとする文

化が根付いている」とみる。

インド人の従業員は仕事の考え方が日本人に似ており優秀な人材も多いが、ビザの関係などで帰国してしまうのも想定しなければならない。文化の違いも理解しながら、人員を固め、いかに日本品質での製品の提供につなげていくかがカギとなる。

（山岸渉）